

第1回 海運モーダルシフト推進協議会 議事概要

- ・日 時： 平成29年11月20日(月) 10:00~12:00
- ・場 所： 中央合同庁舎3号館10階共用会議室 A

<今後の海運モーダルシフトの推進に向けた課題等について>

- 荷主に対して海運の利点等を十分にPR出来ていないので、こうした協議会を通じて海運モーダルシフトの促進策を議論していくことは望ましいと考える。
- 活用されている航路と活用されていない航路があり、全体としてどのように最適化していくかの観点が大事ではないか。
- 外貿コンテナバースにおけるゲートの混雑が激しく、当該バースの利用を避けるトラック事業者が見受けられるなど、海運利用のボトルネックとなっているケースがあるのではないか。
- 荷主の立場からは、様々な輸送モードとの比較の中で、経済合理性に着目しつつ、総体としてどのように輸送するかを判断することになるので、各モードが連携して、全体としての取組を進めていくという観点も重要ではないか。

<モーダルシフト船の運航情報等一括情報検索システム案について>

- 情報が見える化するという方向性は望ましいが、運賃情報は競争力を担保する源泉であり、また、何を運ぶかによって変わってくるので、開示にはなじまないのではないか。
- 運賃について、閑散期、繁忙期等、いろいろな運賃体系が各社によって異なるため、開示すべきかどうか、どのように表示すべきかを含め、しっかりと議論していく必要がある。
- 荷主にとってコストは消費者利益につながるので最重要であり、運賃情報が見えることは、海運サービスの魅力が増すものとする。
- 誰に何をいくらで運んでもらうかは、海運事業者との相対で決まることが多く、運賃情報を開示したとしても、形骸化してしまうのではないか。
- 重要な情報を取り扱うため、普及に向けては誰が管理者となるかが極めて重要であり、フェアな立場で公平性、透明性をもった主体が運営する仕組みとすることが重要ではないか。

<海運モーダルシフト大賞(仮称)制度案について>

- 海運モーダルシフト大賞については、先進的な事例の表彰とともに、継続的なモーダルシフトへの功績に対する表彰も考慮してはどうか。
- 既存の表彰制度との違いを意識しつつ、海運モーダルシフト大賞が物流全体に広く認知される仕組み作りが必要ではないか。

以上